

# CBR 125R



125ccクラスのロードスポーツモデルは、スポーツライディングのエントリーモデルとしての重要な役割があります。専用の車体とエンジン技術で開発されたスポーツ指向の強いモデルであれば、よりライディングの楽しさを感じることができ、大型モデルへのステップアップを目指すライダーにとっては大きな喜びにつながります。

従来モデルのCBR125Rは、スポーツライディングのスキル向上に最適なモーターサイクルでした。そのコンパクトなサイズ、市街地での取り回しやすさや軽量さ、動力性能が高く評価されていました。一方、世界的な観点からフルサイズの125ccスポーツモデルへの要望が高まってきました。

CBR125Rは理想的な“最初のスポーツモデル”を目指して開発。洗練された軽量コンパクトな車体と、CBRファミリーとしての高いパフォーマンスを備え、世界中の若いライダーの共感を得られるようパッケージングしたグローバルモデルです。まさに新世代ライダーのための“最初のスポーツモデル”として、操る楽しさを提供してまいりたいと考えています。

開発のねらいは至ってシンプルです。それは、より大型なマシンの外観と同じフィールを持った高品質な125ccスポーツモデルをつくることです。新しいCBR125Rは前モデルのユーザーフレンドリーなハンドリング特性を踏襲しながら、扱いやすくパワフルな単気筒エンジンを搭載し、現代の若いライダーの要求する洗練されたスタイルとフルサイズのプロポーションで包み込みました。また、ワイドなホイールとタイヤサイズを採用したことで、より大型のモーターサイクルのフィールに近いハンドリングを目指しました。さらに、最新のPGM-FI\*と触媒技術を採用したことで、燃費性能や環境性能の向上を果たしています。

\*PGM-FIは、Hondaの登録商標です。



CBR125Rは、CBR1000RRを頂点としたCBRシリーズに共通したアグレッシブで洗練されたクリーンなラインを持ちながら、独自のスタイルを持っています。

クラスを超えたマシンへの期待に対し、新設計のフルカウルはより高品質なモーターサイクルを想起させるデザインとしました。ワイドな左右別体のポジションランプと組み合わせた視認性に優れたワンピース・ヘッドライトや、フロントカウルのオリジナルシェイプによりCBR125Rの個性を強調しています。また、リアカウルはスリムでスポーティーなイメージを持たせるため、後部に向けてシャープなデザインとしています。

CBR125Rのダイナミックな造形のフルカウルは単なるスタイリングのためだけが目的ではありません。ライダーを走行風から保護するウインドプロテクション効果にも十分に配慮し、長距離ツーリングでの快適性も追求しました。



### ●マフラー

コンパクトな排気システムをリアアクスルより前方に寄せることでダイナミックなマスフォワードのシルエットを実現しました。マシンのリアビューでは130mmのワイドなリアタイヤとスリムなシートカウルとあいまってシャープなイメージを印象づけています。



### ●マルチファンクションデジタルメーター

大型のアナログ式タコメーターの下方に配置したスピードメーターには、液晶式デジタル表示を採用しました。速度、水温が一目で視認できる他、燃料計、オド/トリップ、時計の表示など多機能なメーターとしています。



●カラーリング

ロスホワイト Honda伝統のトリコロールをイメージしています



ブラック 精悍なイメージをより高めたカラーです



エントリー用のスポーツモデルの開発にあたり、力強く扱いやすい出力特性を目指し、PGM-FIの採用など燃焼効率に優れた124cm<sup>3</sup>の水冷4ストロークOHC 2バルブ単気筒エンジンを搭載しました。軽量コンパクトな設計としながら、高回転域までスムーズに回る特性としています。10,000rpm時に9.8kWの最高出力と8,000rpm時に10N・mの最大トルクを発揮するエンジンは、市街地の走行から郊外でのワインディングロードまで幅広い走りに対応しています。

●PGM-FI

環境性能と動力性能を両立させるために、Honda先進のPGM-FI(電子制御燃料噴射装置)を採用しました。さまざまな走行環境において、より適切な混合気をシリンダーに供給が可能なことから、市街地走行からスポーツライディングまで、幅広い走りに対応します。また、O<sub>2</sub>センサーと三元触媒による排気システムとの組み合わせで、排出ガスのクリーン化に寄与しています。

●6速トランスミッション

スポーツライディングをより楽しむために、Hondaの大型スポーツモデルと同様のチェンジアームを持つ6速トランスミッションを採用しました。レバーレシオを最適化した機械式クラッチとの組み合わせで、軽い操作感と上質なチェンジフィーリングを実現しています。



### ●エルゴノミクスデザインに基づくライディングポジション

CBRのネーミングは、走行速度に関わらず卓越したハンドリング性能を示すことを意味します。それはこのCBR125Rも例外ではありません。フルサイズの車体にも関わらず優れた操縦性に加え、エントリーライダーが必要とする扱いやすさも兼ね備えています。

CBR125Rのハンドリング性能を発揮するうえで重要なのは、そのライディングポジションです。793mmのシート高に加え、ハンドルとステップ位置は優れた快適性をもたらすよう配置しました。13Lと比較的容量の大きい燃料タンクの美しい輪郭とともに、スポーティーでありながら、落ち着いたライディングポジションとしました。また、ライダーの体重を適切に分散させることで、疲れにくい姿勢を保ちながら、スポーツライディング時にもライダーの動きを妨げない仕様としています。

### ●スチール製ツインチューブフレーム

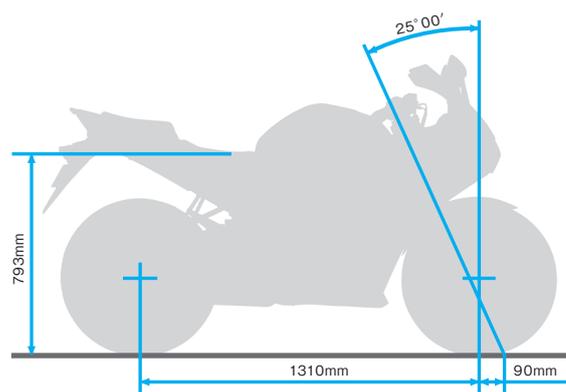
CBR125Rは、五角形断面のスチール製ツインチューブフレームを採用しました。エンジンを強度部材として利用するダイヤモンド式を採用し、ヘッドパイプからスイングアームピボットまでをエンジン側面を通る直線で結ぶ軽量コンパクトな構成で、スポーツバイクに必要とされる高い剛性を備えています。



### ●スポーティーかつユーザーフレンドリーなジオメトリー

スポーツライディングに必要とされるリニアな反応と、操縦安定性をバランスさせたのがCBR125Rの車体フィールです。

1,310mmという短めのホイールベースと、90mmのトレールを設定したことで、俊敏性を活かしながらも安定感のあるセッティングを目指しました。



### ●パッセンジャーの利便性

後部シート両側のリアグリップは、パッセンジャーに使いやすい形状としながら、シャープなスタイリングにマッチしたデザインとしています。



### ●路面追従性に優れたサスペンション

フロントには、φ31mmのテレスコピックタイプを、リアにはモノショックタイプを採用。路面追従性を追求したセッティングとしています。

### ●前後17インチのホイール、タイヤ

前後に17インチのアルミキャストホイールを採用。スタイリッシュな5本スポークのデザインとしています。フロントタイヤには100/80-17のサイズを、リアには130/70-17サイズを採用することで、旋回性能と安定した直進性を両立したものとしています。



### ●ブレーキ

前後ともに、本格的なディスクブレーキを装備しています。フロントはφ276mmのシングルタイプを、リアにはφ220mmのディスクを採用。コントロールラブルで制動性能に優れたものとしています。

## 主要諸元

# CBR125R

### CBR125R

車名・型式	ホンダ・EBJ-JC50	
全長×全幅×全高 (mm)	1,985×710×1,135	
軸距 (mm)	1,310	
最低地上高 (mm)	185	
シート高 (mm)	793	
車両重量 (kg)	136	
乗車定員 (人)	2	
燃料消費率 (km/L) *	52.5 (60km/h定地走行テスト値)	
最小回転半径 (m)	2.5	
エンジン型式	JC39E	
エンジン種類	水冷4ストロークOHC2バルブ単気筒	
総排気量 (cm <sup>3</sup> )	124	
内径×行程 (mm)	58.0×47.2	
圧縮比	11.0	
最高出力 (kW[PS]/rpm)	9.8[13]/10,000	
最大トルク (N・m[kgf・m]/rpm)	10[1.0]/8,000	
燃料供給装置形式	電子式〈電子制御燃料噴射装置(PGM-FI)〉	
始動方式	セルフ式	
点火装置形式	フルトランジスタ式バッテリー点火	
潤滑方式	圧送飛沫併用式	
燃料タンク容量 (L)	13	
クラッチ形式	湿式多板コイルスプリング	
変速機形式	常時噛合式6段リターン	
変速比	1速	3.454
	2速	1.941
	3速	1.450
	4速	1.173
	5速	1.041
	6速	0.923
減速比 (1次/2次)	3.350/2.933	
キャスト角 (度)	25° 00′	
トレール量 (mm)	90	
タイヤ	前	100/80-17M/C 52P
	後	130/70-17M/C 62S
ブレーキ形式	前	油圧式ディスク
	後	油圧式ディスク
懸架方式	前	テレスコピック式
	後	スイングアーム式
フレーム形式	ダイヤモンド	

■道路運送車両法による型式認定申請書数値(シート高はHonda測定値)

■製造事業者/Thai Honda Manufacturing Co., Ltd. ■製造国/タイ ■輸入事業者/本田技研工業株式会社

\*燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。お客様の使用環境(気象、渋滞など)や運転方法、車両状態(装備、仕様)、整備などの諸条件により異なります。

※本仕様は予告なく変更する場合があります。